

道徳(中学校)

道徳の時間の目標は、どう改善されたのか。

道徳の時間目標については、学習指導要領の中で以下のように示されている。
(下線部は、現行学習指導要領に新たに追加されたもの。)

〔「第3章道徳」の「第1 目標」後段〕

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

中学生の時期は、人生にかかわるいろいろな問題についての関心が高くなり、人生の意味をどこに求め、いかにによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索し始める時期である。人間にとっての最大の関心は、人生の意味をどこに求め、いかにによりよく生きるかということにあり、道徳はこのことに直接かかわるものである。人間は、自らの生きる意味や自己の存在価値にかかわることについては、全人格をかけて取り組むものである。生徒自身の、道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深めることとかかわって指導されてこそ真に道徳的実践力の育成が可能になる。

道徳的実践は、内面的な道徳的実践力が基盤になければならない。道徳的実践力が育つことにより、より確かな道徳的実践ができるのであり、そのような道徳的実践を繰り返すことによって、道徳的実践力も強められる。道徳的実践力と道徳的実践が響き合って生徒の道徳性を高めることができる。したがって、道徳の時間においては、その特質を十分に理解し、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように特に留意し、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切である。

道徳の時間の特質を一層明確にするために、「道徳的価値及びそれに基づいた人間の生き方について自覚を深め」と改善を図った。

道徳的価値について

- ① **道徳的価値についての理解**
道徳的価値が人間らしさを表すものであるため、同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。
- ② **自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること**
そのことに合わせて自己理解を深めていくようにする。
- ③ **道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること**
その中で自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにする。

道徳の時間の目標は、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度で構成される**道徳的実践力を育成**することであり、そのことは現行学習指導要領と何ら変わらない。ただ、**道徳的価値に基づいた**人間としての生き方について自覚を深めることが道徳的実践力を育成することにつながることを強調した。